

初夏どり

## アーバイン

ハウレンソウ

べと病  
レース  
1-10

作り手の笑顔が品質の高さを証明!超多収、超濃緑!長野県の4~6月蒔きで大絶賛!

「アーバイン」の魅力を笑顔で話す伊藤さんご夫妻  
(2013年6月)

八ヶ岳の西麓に位置する長野県原村(標高900~1,300m)。伊藤さんご夫妻は同地で雨よけハウレンソウを経営しています。今回、「アーバイン」を初夏どり栽培で導入したところ、「秋冬ハウレンソウのような株張りの良さ、従来品種を超える濃緑でツヤのある美しい荷姿。」と高く評価していただきました。また、べと病に対する強さも高評価につながりました。



## ココがすごい!「アーバイン」の品種特性



◀ご覧ください!この株張り、色ツヤ、揃い! 取材日:2013年6月12日

伊藤さんは4月下旬から「アーバイン」の播種をスタート。徒長しづらく、株張りしながら生育する「アーバイン」は収量性にたいへん優れていました。

また、曇天による日照不足や灌水過多で土壤水分が多くなってしまっても徒長せず、がっちりとした荷姿に仕上がっています。本葉は大きく、厚みがあり、ボリューム感があります。また、葉色が濃緑で色ツヤがきれいなのも「アーバイン」の特長のひとつです。



◀ボリューム感たっぷりで市場関係者から高評価!

今回の収量は10aに換算しておよそ2,000kg。初夏どり栽培で秋冬ハウレンソウ並みの収量を実現しました。袋詰めすると、ボリューム感と色ツヤの美しさがいっそう際立っています。また、「アーバイン」は葉肉が厚いので出荷後の棚もちにもたいへん優れており、市場関係者から高く評価されておりました。

伊藤さんは「アーバイン」の栽培ポイントを「生育ステージに応じた水分管理」と説明していただきました。具体的には次のとおりです。

## 伊藤さん直伝!「アーバイン」の水管理

- ①発芽時に要求する水分量は従来品種より少ない。発芽前の灌水量は発芽するまで乾かない程度の最低限の水分量に抑える(灌水量が多いと、不発芽や立枯病の発生が多くなるので注意)。
- ②本葉が2~3枚開くまでは①と同様の管理を行う。
- ③本葉4~5枚からは従来品種よりもこまめに灌水し、生育を促進する。灌水量が少ないと生育が停滞し、収穫遅れにつながるので注意!(灌水量の目安は葉肉の厚さを参考に)

葉肉が厚い⇒灌水量を増やして生育させる 葉肉が薄い⇒葉肉が厚くなるまで灌水を控えめに行う

各地域の作型は19ページをご覧ください